



新潮新書

Brevity is the soul of wit,
and tediousness the limbs and outward flourishes.



国家の矛盾

高村正彦 三浦瑠麗

KOUMURA Masabiko

MIURA Lully

国家の矛盾



9784106107030



1920231007809

ISBN978-4-10-610703-0
C0231 ¥780E

定価：本体780円(税別)



高村正彦 こうむら まさびこ

一九四二(昭和十七)年生まれ。衆議院議員。自由民主党副総裁。弁護士。外務大臣、防衛大臣、法務大臣などを歴任。



三浦瑠麗 みうら るり

一九八〇(昭和五十五)年生まれ。国際政治学者。東京大学政策ビジョン研究センター講師。株式会社山猫総合研究所代表。博士(法学)。

自民党政権はなぜ集団的自衛権の行使容認に踏み切ったのか。日本外交は本当に「対米追従」なのか。外交・安保論議を一貫してリードしてきた自民党の重鎮が舞台裏を明かす。日米同盟と憲法9条に引き裂かれた戦後日本の安全保障論議に「不健全なもの」を感知する国際政治学者が、平和安全法制の「騒動」に見たものは――。外交・安保の「現場」と「理論」が正面からぶつかり合った異色の対談。

ウェブで世界を考える。

Foresight

新潮社の会員制国際情報サイト
月額800円(税込)

www.fsight.jp

【新潮社のホームページ】 <http://www.shinchosha.co.jp>



自民党外交族の重鎮に
気鋭の学者が迫った異色対談。

何が国益を 損なうのか。



新潮新書 新刊

高村正彦 三浦瑠麗

新潮新書 703

安全保障は「確率のゲーム」／戦前の「翼賛勢力」に似ているのはどっち？／「国益」の縛りがあった方が軍隊の派遣は抑制的になる／トランプの「安保ただ乗り論」／SEALDsの学生は「日本のいい子」／「中国の脅威」はどの程度なのか／尊重すべき「砂川判決」の法理／もともと「限定容認派」だった安倍総理／高村説、自民党を平定す／憲法学者の「領海侵犯」／対北朝鮮政策に「正解」は存在しない